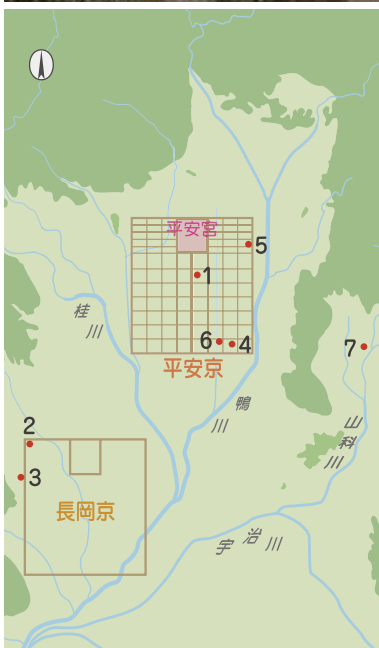


発掘成果をふりかえって 2014

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置



1 平安京左京四条一坊二町跡 中京区壬生朱雀町

平安時代後期の池と建物の関係が明らかになった。池は3時期の変遷があり、特に3期目の池は北側に建物があり、そこから南に石組溝が延びて池に水を引いていた。また当地は、12世紀前半には藤原為隆が仏堂を建立し、「風流絶妙也」と称されていたことが知られており、文献史料と発掘調査による成果が比較できる数少ない例として注目される。



2 堂ノ上古墳 西京区大原野上里南ノ町

古墳時代前期末から中期初めの新発見の古墳である。主体部は削平されていたが、北側の葺石・埴輪列を検出し、一辺 25 m 程度の方墳と推定される。円筒埴輪のほかにか家形埴輪などの形象埴輪も出土した。



3 芝1号墳 西京区大原野石見町

南北に主軸をおく前方後円墳で、後円部西側、北側、東側と前方部南側を調査し、古墳全長 33 m と判明した。後円部西側で石組施設を検出したが、これは主体部にともなう排水施設とみられる。



4 平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡 南区東九条上殿田町

平安時代前期から中期には自然流路が中央部を南流する。流路を利用した園池が造成されており、岸には礫で洲浜を作っていた。池内の埋土からは救済施設である施薬院に関する木簡が出土した。



5 平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路 中京区御幸町通竹屋町上る毘沙門町

平安時代前期から室町時代までの東京極大路の変遷が明らかとなった。平安時代中期の溝の底から、土師器皿を 12 枚重ねて置いた地鎮遺構が見つかった。路面の造成時に祭祀が行なわれたようだ。



6 平安京左京九条二坊十六町跡・御土居跡 南区西九条北ノ内町

平安時代末期から鎌倉時代にかけての邸宅の一角で、部分的に地業を施した珍しい構造の建物を確認した。地業は地面を掘り込み拳大の礫と土で締めている。邸宅内の持仏堂かクラの建物基礎とみられる。



7 山科本願寺跡 山科区西野山階町

御本寺の西側を区画する土塁とその内側で、排水用に掘られた溝と建物 3 棟を検出した。下層で見つかった斜め方向の堀は土塁の下にもぐり込んでおり、堀を埋めた上に土塁が築かれていた。